

日本金属製造情報通信労働組合 JMITU

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

JMITU

(日本金属製造情報通信産業労働組合)

Japan Metal Manufacturing, Information and Telecommunication Workers Union

設立年月日 [2016年1月31日](#)

前身組織 [全日本金属情報機器労働組合 \(JMIU\)](#)
[通信産業労働組合 \(通産労\)](#)

組織形態 [産業別労働組合](#) (単一組織)

組織代表者 三木陵一 (委員長)

加盟団体数 約 300 支部・分会

組合員数 約 6,500 人

国籍  [日本](#)

本部所在地 〒114-0023
[東京都北区滝野川](#) 3丁目3番1号
ユニオンコーポ3階

[法人番号](#) [6011505000809](#)

加盟組織 [全国労働組合総連合](#) (全労連)

支持政党 なし

公式サイト [JMITU 日本金属製造情報通信産業労働組合](#)

JMITU ([日本語](#): 日本金属製造情報通信産業労働組合、[英語](#): Japan Metal Manufacturing, Information and Telecommunication Workers Union^{[[註 1](#)]) は、[日本の労働組合](#)で機械金属産業や鉄鋼・自動車・情報機器などの製造業および、情報通信産業の[労働者](#)で構成する[産業別労働組合](#)である。[全国労働組合総連合](#) (全労連) に加盟している。}

概 要

[2016年1月31日](#)に、全日本金属情報機器労働組合（JMIU）と通信産業労働組合（通産労）の組織統一によって誕生した。機械金属産業や鉄鋼・自動車・情報機器などの製造業および、情報通信産業などの労働者が加盟する、個人加盟制の単一体の労働組合である。個人加盟方式であるため、職場に組合組織がない場合でも組合に入ることができる。大企業から中小企業まで約300の支部・分会に約6,500名の労働者を組織している。ただし、大企業の組織については、[連合加盟の自動車総連](#)や[電機連合](#)に加盟する組合に対して少数派に留まっている場合が多い。

JMIU と通信労組は、ともに [1980年代の労働戦線統一問題](#)をめぐって、[同盟](#)および民間主導によるナショナルセンターの再編を「右傾化」などと批判して、新たに結成された組織である。そのため、連合に加盟する組合の[労使協調](#)路線に対して批判的な態度をとっている。参加組織のなかには、[日産自動車](#)の経営陣や主流派労組とたたかった全金[プリンス自動車工業](#)支部を受け継ぐ日産自動車支部や^[4]、会社による組合を狙いうちした大規模[リストラ](#)・[ロックアウト](#)解雇とたたかった[日本アイ・ビー・エム](#)支部など^[5]、戦闘的な歴史をもつ組織を多く抱えている。

綱領では「資本からの独立、政党からの独立、一致する要求での統一行動」の原則を掲げ、「資本の「[合理化](#)」攻撃に反対し、職場に働く労働者の闘いを重視し未組織の仲間の組織化」をめざすことなどを謳っている^[6]。また、結成宣言では、「要求実現をめざす運動と組織の基本を「職場にたたかう砦を」、「地域に共闘を」、「全国統一闘争の発展」に置いてたたかいます」と述べ、綱領に掲げた目標や「日本の憲法と平和・民主主義をまもり確立する」目標を掲げている^[4]。

2016年の結成大会で選ばれた役員は、委員長＝生熊茂実、書記長＝三木陵一ほか^[6]。機関紙は『JMITU』（月刊、タブロイド判）を発行している。

金属反合共同行動

JMITU の特徴的な運動の一つに、金属反合共同行動がある。この活動は、JMITU の金属機械反合闘争委員会によって行われている、さまざまな支部や分会の共同の運動である。「反合」（はんごう）とは「反合理化」の略であり、労働者にとって不利な合理化に反対し、権利を擁護するための職場を超えた統一行動である。JMITU の前身にあたる金属機械労組連絡会が結成された [1982 年](#) から行われており、近年は [ブラック企業](#) 問題や [ハラスメント](#) 問題にも取り組んでいる^④。

企業の経営や生産の「合理化」は、しばしば [労働条件](#) の悪化や給与の減額、工場閉鎖や労働者の [解雇](#) を引き起こし、中小企業かつ製造業のばあい経営体力に乏しく [景気変動](#) に弱いことから、とくに労働者にとって不利な事態が発生しやすい。また、中小企業は労働者の数が少なため、職場単位での労働組合運動に不利な面を抱えている。さらに、JMITU は大企業においても多数の労働者を組織しているとは限らない。こうした不利な条件を補うために、JMITU は職場を超えた団結と連帯の産業別統一闘争を重視し、その一環として金属反合共同行動を行っているのである。

金属反合共同行動では、問題が起こった会社に対して本社や事業所近くの駅前での街頭宣伝、包囲デモなどを行って、職場の運動を励まし問題の周知を図る。各支部・分会の旗が林立し、宣伝カーが繰り出されることもある。2009 年 10 月 15 日時点で 200 回を迎えた^④。また、金属反合 10 周年を記念した歌として「ともに明日へ」（作詞：[小森香子](#)、作曲：安藤由布樹）がある。

前身となった団体

全日本金属情報機器労働組合（JMIU）

- 略称：全日本金属・JMIU、英語：All Japan Metal and Information Machinery Workers Union

金属機械・電機・鉄鋼・自動車などの金属関連、コンピュータやソフトなど情報機器関連産業の労働者で構成。個人加盟制の産業別単一労働組合。[1989年](#)結成。

[全国金属労働組合](#)（全国金属、[1950年](#)結成）は[日本労働組合総評議会](#)（総評）に加盟し[日本社会党](#)を支持政党としていたが、社会党支持に反対する[日本共産党](#)系の勢力を反主流派として抱えていた。[1980年代](#)の労働戦線統一問題をめぐって主流派と反主流派の対立が深まり、[同盟](#)系の組合に接近して[全民労協](#)への参加を図る主流派の路線を反主流派は「右傾化」と批判した。

1982年8～9月に開かれた全国金属第50回定期大会では両派が激突し、役員選挙では決選投票が行われて主流派が主な役員を占めるにいたった⁸⁾。反主流派は、同年[12月19日](#)に「右翼労戦不参加、金属機械労組連絡会」（金属機械労組連絡会、金属連絡会とも）を結成し左派の結成を図った。全国連絡会会長は中里忠仁（全国金属前副委員長）、事務局長は生井宇平（全国金属中央委員）⁹⁾。

全民労協が右派を結集する連合（全日本民間労働組合連合会、全民労連）へと発展することが決定的になるなか、金属機械労組連絡会は、[1987年8月5日](#)の常任幹事会で、「金属機械産業における連合反対勢力の結集をめざす方針」を決め、「「連合」はあまりにも同盟的で」「[反共](#)・労資協調・選別の露骨さは、とうてい職場の理解を得ることは不可能である」と主張し、連合加盟の凍結、左派の結集、総評の解体反対と総評労働運動のすぐれた面の継承などを全国金属の加盟組合に呼びかけた¹⁰⁾。8月末に開かれた全国金属第60回定期大会は、主流派が連合への参加を提案して賛成191、反対47、白票1で可決されるにいたった。それでも反対派は約20%を集め、金属労組連絡会系に加えて社会党や無党派の左派系代議員が一致して行動し、大会の会場入り口では全国金属1300支部のうち320支部連名での反対ビラがまかれた¹¹⁾。

翌[1988年](#)8～9月の全国金属第62回定期大会では、同盟傘下の[全金同盟](#)、[新産別](#)傘下の[全機金](#)などとの新組織をつくることを決定した。さらに、金属機械労組連絡会に対しては、「もはや一つの組織における意見の相違とはいいがたい。明らかな分裂行動である」とし、「継続して連絡会活動にかかわる支部には全国金属からの離脱を求める」とした。大会では反対派代議員が修正

案を提案したが、前年よりも少数で否決された。金属機械労組連絡会は10月に第2回定期総会を開いて全国金属を非難するとともに、社会党や無党派の左派とも連携して新しい組織の結成を目指すこととなった^[12]。

こうして、[1989年2月27日](#)と[28日](#)の両日、東京[千駄ヶ谷](#)の日本青年館において全日本金属情報機器労働組合（JMIU）の結成大会が開かれた。参加したのは293支部の1万2000人で、このうち約1万人が全国金属を脱退した組織であったとみられる。委員長は中里忠仁（連絡会会長）、事務局長は生井宇平（連絡会事務局長）を選出。反連合を打ち出して新たに結成された最初の労働組合として注目された^[13]。結成されたJMIUは「たたかうナショナルセンター結成準備会」に加わり、11月の[全労連](#)の結成に参加した^[14]。また、[全労協](#)にも参加したが、ナショナルセンターへの対応の違いから[1994年9月末](#)に脱退している^[15]。（他方の全国金属は、同年に全機金と組織統合して全国金属機械労働組合（金属機械）となって[連合](#)に加わり、[1999年](#)にゼンキン連合とも組織統合して[JAM](#)（ものづくり産業労働組合）となって今日に至っている。）

結成後、[1990年代](#)から[2000年代](#)は製造業に厳しい経済状況が続いて、JMIUの組合員数は減り続けるなかで、多くの困難に直面しながら運動を行った。親会社の責任を認めさせた船井電機争議や三立電機争議、臨時社員の賃金是正を訴えた丸子警報器争議、経営再建をめぐる[日産自動車](#)争議、工場閉鎖や組合つぶしをめぐる[高見沢電機](#)争議、強制転配をめぐる[日本NCR](#)争議、倒産した企業の経営再建と職場復帰を勝ち取った[池貝](#)争議などを行った。また、[非正規雇用](#)の問題にも取り組み、光洋シーリングテクノ、[日亜化学工業](#)、[いすゞ自動車](#)などで運動を展開した^[16]。

JMIUの中央本部事務所は、[東京都北区滝野川](#)3丁目3番1号ユニオンコーポ3階に置かれた。福利厚生事業としてJMIU中央共済会を運営。機関紙は『金属労働新聞』で、金属機械労組連絡会が発足した1982年から刊行。結成からしばらくは、JMIUの略称のほかにも全日本金属という略称も使われており、以前の写真では「全日本金属〇〇支部」などと書かれた組合旗が映

っているものを確認することができる。通信労組との組織統一後は、旧事務所を継承して JMITU の中央本部事務所としている。

通信産業労働組合

- 略称：通産労・通信労組・TCWU、英語：Telecommunication Workers Union

[NTTグループ](#)（旧・[日本電信電話公社](#)）の労働者で構成。個人加盟制の産業別単一労働組合。

[1981年](#)結成。

[全国電気通信労働組合](#)（全電通、1950年結成）もまた、総評に加盟して日本社会党を支持政党としながら、一部に社会党支持に反対する勢力を抱えていた。[1964年](#)の[4.17ゼネスト](#)では、一部の組合員を[日本共産党](#)のスト反対声明に同調して全電通の方針に反した行動をしたとして統制処分を下した。こうした経緯から、全電通より除名・脱退した近畿通信局管内の組合員が、1981年[4月26日](#)に通信産業労働組合（通産労または通信労組、当初170名）を結成。労働戦線統一問題をめぐって[同盟](#)系の組合に接近して[全民労協](#)との協調を図る政治路線を「右傾化」と批判して、左派の統一戦線促進労働組合懇談会（統一労組懇）との連帯を強化する方針をとった[\[17\]](#)。

その後、通産労は他地域にも組織を拡大し、多数派である全電通に対する批判勢力を築いた。

1989年に全労連が結成されるとこれに加盟。（他方の全電通は、民間主導による労働戦線の統一を進める役割を果たし、連合が結成されると[山岸章](#)を初代委員長に送り込んだ。）

通産労の中央本部事務所は、東京都[世田谷区松原](#)3丁目41の15 NTT 松沢別館に置かれた。福利厚生事業としては通信産業労働組合共済会（通信労組共済）を運営。機関紙は『通信労組』を発行。JMIU との組織統一後は、JMITU 通信産業本部として旧事務所を継承し、全国に28の都道府県支部に約500名を組織している。また、「通信労組組唱歌」（作詞：市野みのる、作曲：高平つぐゆき）が存在する。

組 織

中央本部を東京に設置して、事務局の機能を持たせている。地方組織はいずれも「JMITU〇〇地本」と称している。規模の大きい事業所は企業支部、規模の小さい事業所は地域支部を通じて企業分会を組織し、地方本部がない県の支部・分会は近隣の地方本部に直接加盟している。例えば、JMITU 東京地方本部南部地区協議会（東京南部地協）の場合、（１）日本アイビーエム支部、港プラスチック支部、アイ・エス・ビー支部、東京測器研究所支部といった企業支部、（２）各事業所の分会を組織する大田地域支部、品川地域支部、目黒地域支部といった地域支部がある^[18]。

また、通信産業本部はこれとは別に全国に 28 の都道府県支部を有する。

地方本部および通信産業本部

- 茨城地方本部
- 栃木地方本部
- 群馬地方本部
- 埼玉地方本部
- 千葉地方本部
- 東京地方本部
 - 北部地区協議会
 - 東部地区協議会
 - 南部地区協議会
 - 西部地区協議会
- 神奈川地方本部
- 長野地方本部
- 静岡地方本部
- 通信産業本部
 - 埼玉支部
 - 東京支部
 - 神奈川支部
 - 静岡支部
 - 愛知支部
 - 岐阜支部
 - 京都支部
 - 大阪支部
 - 兵庫支部
 - 山口支部
 - 四国支部
 - 福岡支部

- 愛知地方本部
 - 京滋地方本部
 - 大阪地方本部
 - 岡山地方本部
 - 愛媛地方本部
 - 徳島地方本部
 - 福岡地方本部
- 大分支部など

支部・分会および組合員の変遷

西暦	支部・分会数	組合員数	(うちパート労働者)	支部・分会数	組合員数	(うちパート労働者)
—	全日本金属情報機器労働組合			通信産業労働組合		
1990年	315	11,098人	約100人	(データなし)		
1991年	307	12,369人	約140人	44	1,123人	-人
1992年	308	11,696人	約130人	50	1,187人	-人
1993年	319	12,149人	約130人	50	1,205人	-人
1994年	329	12,114人	約120人	52	1,259人	-人

1995年	318	11,857人	約100人	48	1,254人	-人
1996年	320	11,232人	約110人	50	1,254人	-人
1997年	320	10,994人	約100人	49	1,250人	-人
1998年	328	10,896人	約100人	46	1,223人	-人
1999年	325	10,647人	-人	45	1,204人	-人
2000年	327	10,235人	約100人	43	1,163人	-人
2001年	326	9,483人	約80人	41	1,157人	-人
2002年	313	8,911人	84人	43	1,144人	-人
2003年	312	8,966人	約90人	40	951人	0人
2004年	338	8,816人	約80人	44	924人	0人
2005年	337	8,706人	約310人	43	838人	0人
2006年	341	8,691人	約140人	40	869人	-人

2007年	338	8,822人	約90人	37	785人	0人
2008年	314	8,288人	約140人	38	698人	約20人
2009年	329	8,744人	約170人	37	640人	約20人
2000年	324	8,563人	約160人	37	640人	約20人
2011年	315	8,043人	約150人	37	605人	約40人
2012年	309	7,624人	約130人	37	564人	約30人
2013年	302	7,241人	147人	31	480人	23人
2014年	280	6,549人	185人	31	391人	25人
2015年	266	6,280人	113人	30	344人	16人
—	JMITU					
2016年	278	6,126人	126人			
2017年	261	5,921人	117人			

2018年	251	5,562人	106人	
-------	-----	--------	------	--

(出典：労働省・厚生労働省『労働組合基礎調査』各年版)

歴代役員

大会（選出時期）	委員長	副委員長	書記長	備考
第1回大会 (2016年1月選出)	生熊茂実（本部）	宇佐美俊一（通信産業本部） 川口英晴（東京地本） 山本善五郎（京滋地本）	三木陵一（本部）	[5]
第4回定期大会 (2017年7月選出)	三木陵一（本部）	〃	笠瀬隆司（本部）	[19]
第6回定期大会 (2018年7月選出)	〃	宇佐美俊一（通信産業本部） 川口英晴（東京地本）	〃	[20]
第8回定期大会 (2019年7月選出)	〃	宇佐美俊一（通信産業本部） 川口英晴（東京地本） 久松博行（大阪地本）	〃	[21]

出版物

- 全日本金属情報機器労働組合
 - 『ここがポイント労働組合を強く大きくするために』 (学習の友社、1990年11月) [ISBN 978-4761710057](#)
 - 「合理化」反対闘争の基本 (反合パンフ)
 - 『「合理化」反対闘争の基本 第1集 倒産、工場移転、出向・転配など「合理化」攻撃とのたたかい』 (学習の友社、増補改訂版、1995年8月) [ISBN 978-4761710095](#)
 - 『「合理化」反対闘争の基本 第2集 企業分析のしかた・職場政策のつくりかた』 (学習の友社、1997年8月) [ISBN 978-4761710156](#)
 - 『くらし・職場・政治と労働組合 金属に働く仲間の学習テキスト』 (学習の友社、1999年8月) [ISBN 978-4761710163](#)
 - 『リストラ・倒産対応マニュアル くらし、雇用、将来の不安は解決できる』 (学習の友社、2004年1月) [ISBN 978-4761710224](#)
 - 『JMIU・金属連絡会の歩み 金属労働者のたたかう伝統に学ぶ』 (学習の友社、2004年7月) [ISBN 978-4761706203](#)
 - 『わたしたちと労働組合 スタンダード編』 (学習の友社、2009年10月) [ISBN 978-4761706616](#)
 - 『金属労働新聞 縮刷版』全3冊 (1982~2003年)
- JMIU 栃木地方本部『腕章がつなぐ13人の絆 人間の尊厳を求めるレオン支部の闘い』 (随想舎・ずいそうしゃブックレット9、2001年) [ISBN 978-4887480520](#)
- 松井繁明・生熊茂実 (編著) 『リストラ撃退ABC 納得できないあなたに』 (学習の友社・実践職場と権利シリーズ7、2002年) [ISBN 978-4761703578](#)

- 。 著者の生熊茂実は JMIU の委員長。

脚 注

注 釈

1. △本記事では「日本金属製造情報通信労働組合」を記事名とし、記事内では実質的な名称として使われている JMITU を用いる。
組合規約によれば、「第1条 この組合は、JMITU（以下、組合という）という。／2 この組合の日本語表記は日本金属製造情報通信労働組合といい、英語表記は Japan Metal, Manufacturing, Information and Telecommunication Workers' Union という」とされ、JMITU を第一番目の名称として掲げている（[日本金属製造情報通信産業労働組合（JMITU）綱領・規約](#)、2020年2月19日閲覧）。また、国税庁の法人登録においても JMITU を名称としている。一方で、厚生労働省の「労働組合調査」や上部団体である全労連 HP では「日本金属製造情報通信産業労働組合（JMITU）」とされており、日本語表記を正式名称として扱っている。

出 典

1. △ [JMIU 日産自動車支部](#)
2. △ [JMITU 日本アイビーエム支部](#)
3. △ [JMITU 規約](#)（2018年5月20日閲覧）
4. △ [JMITU 結成宣言](#)
5. △ ^{a b} 「JMITU を結成 JMIU と通信労組が統一」（『しんぶん赤旗』2016年2月2日付）
6. △ [第240回金属反合共同行動&JMIU 中央行動](#)（2018年5月20日閲覧）
7. △ [はぐるま No.20](#)（2018年5月20日閲覧）
8. △ [「主要労組の大会」](#)、法政大学大原社会問題研究所編『日本労働年鑑 第54集』（労働旬報社、1984年）、p.220
9. △ [「産業別組織の動向」](#)、『日本労働年鑑 第54集』（1984年）、p.196
10. △ [「総評左派、反主流派の方針」](#)、『日本労働年鑑 第58集』（1988年）、pp.61-62
11. △ [「主な単産の大会」](#)、『日本労働年鑑 第58集』（1988年）、p.260
12. △ [「単産などの動向」](#)、『日本労働年鑑 第59集』（1989年）、p.209
13. △ [「産業別組織の動向」](#)、『日本労働年鑑 第60集』（1990年）、pp.197-198
14. △ [「全労連、全労協の結成」](#)、『日本労働年鑑 第60集』（1990年）、p.192
15. △ [大原社研 大原クロニカ JMIU（全日本金属情報機器労働組合）](#)
16. △ [JMIU の活動紹介](#)（2018年5月20日閲覧）
17. △ [「産業別組織の動向」](#)、『日本労働年鑑 第53集』（1983年）、p.198
18. △ [JMIU 紹介](#)（2018年5月20日閲覧）
19. △ [JMITU は第4回定期大会を伊東で開催](#)（2018年9月1日閲覧）
20. △ [JMITU は第6回定期大会を伊東で開催](#)（2018年9月1日閲覧）
21. △ [要求実現と組織拡大に全力、9条改憲阻止へ](#)（2020年2月19日閲覧）

関連項目

- [全国労働組合総連合](#)
- [JAM \(労働組合\)](#) (旧・全国金属労働組合)
- [NTT 労働組合](#) (旧・全国電気通信労働組合)
- [日本の労働組合](#)

外部リンク

- [JMITU 日本金属製造情報通信産業労働組合](#)
- [JMITU 通信産業労働組合](#)

カテゴリ:

- [全国労働組合総連合](#)
- [東京都北区の組織](#)
- [2016年設立の組織](#)



全日本金属情報機器労働組合 (略称: JMIU)

all Japan Metal and Information machinery Worker's Union

JMIU (全日本金属情報機器労働組合) は、鉄鋼、金属製品、一般機械、電気機器、自動車、造船、精密機器、ソフト産業など金属、コンピューター、情報機器関連産業の労働者・労働組合が集まってつくられている全国組織です。

JMIUはこんな職場、社会、労働組合をめざします。

—生活と雇用に不安のない安心して働ける職場—

- 解雇や配転・出向の規制など、安心して働ける職場のルール確立。
- 青年・女性・中高年・パートや派遣などすべての仲間が安心して暮らせる賃金。
- ただ働きや、長時間労働の根絶、労働条件の向上。
- ひとりひとりの技術、技能が大切にされ、よりよい人間関係のつくれる職場。
- 明るくみんながいいきと働き甲斐をもてる活力ある職場。
- 会社のあるゆる問題について会社と労働組合がよく話し合い、解決していける職場。

—誰もが安心して暮らせる社会—

- 失業の不安もなく、青年が将来に希望をもてる社会。
- 大企業の中小企業いじめをなくし、中小企業、地域経済を守る社会。
- 改悪されつづけてきた年金や医療など社会保障制度を拡充し、安心して暮らせる社会。
- 国民の安全、自然環境を大切にす社会。

- あらゆる差別やいじめ、暴力をなくし、すべての人が幸せに暮らせる社会。
- 核兵器や米軍基地のない平和な社会。

—みんなが主人公、あかるく魅力ある労働組合—

- ひとりひとりが主人公となり、連帯感あふれる魅力ある労働組合。
- ひとりひとりの組合員のどんな悩みや相談にも親身になって応えられる労働組合。
- 組合員はもちろん、管理職や経営者のみなさんからも信頼される労働組合。
- それぞれの企業、金属情報機器産業全体に影響力をもちつ強大な労働組合。

労働相談は大田地域支部へ

労働相談窓口

(専

門員が応対し相談は無料です)

JMITU

日本金属製造情報通信労働組合

一人でも入れる、経験豊富な、頼りになる労働組合です。

東京都大田区蒲田1丁目18番1号

案内図

電話:03-3734-3502 FAX:03-3734-3534

[Eメール:jmiuoota@orchid.plala.or.jp](mailto:jmiuoota@orchid.plala.or.jp)

(電子メールによるご相談は、全国どちらの方でも受け付けます)

目次

[労働組合とは？](#)

[JMITUってなに？](#)

[憲法と労働法](#)

[大田地域支部規約](#)

[支部機関紙・大地](#)

[日本鋳螺釘チラシ](#)

[労働相談\(事例\)](#) (2010年5月26日)

[セガグループ分会](#)

[JMITU 三多摩地域支部](#)

[J M I U北部地域支部](#)